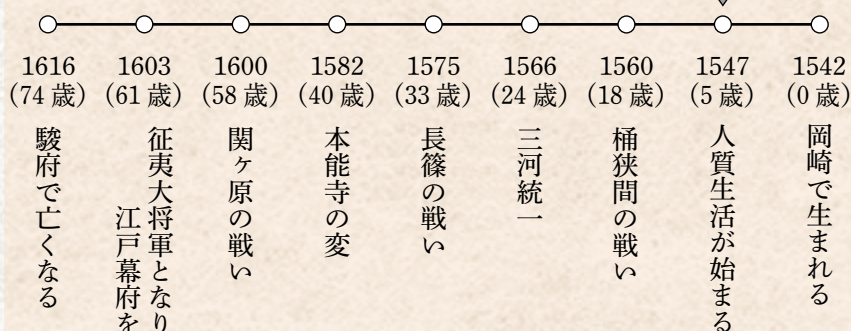


家康もめる

第1回

竹千代強奪事件と大津湊

今回はこのあたりのお話



豊橋市内の徳川家康ゆかりの地を、
2か月に1回の連載で学芸員が紹介し
ます。



問合せ 文化財センター (☎56・6060)

徳川家康が竹千代と称した子ども
ころ、苦難に満ちた生活を送ったこと
はご存じの方も多いいのではないでしょ
うか。家康は青年になるころまで、松
平の姓を名乗っていました。岡崎城を
本拠地にした松平氏は、尾張（現在の
愛知県西部）の織田氏、駿河・遠江（現
在の静岡県）の今川氏の二大勢力に挟
まれ、苦境に立たされていました。そ
こで当主である松平広忠は、家を守る
ため、息子の竹千代を今川氏に人質と
して差し出すことにしました。人質と
なるべく駿河に向かった竹千代は、岡
崎を南下して、当時「西郡」と呼ばれ
ていた現在の蒲郡の湊から船に乗りま
した。そしてたどり着いたのが、継母
の実家である戸田氏の勢力下にあった
「大津湊」、現在の老津町です。
ところが、信頼していた戸田氏の裏



太平寺の開かずの門

太平寺は、平安時代の末期に創立したと伝わる
古刹です。江戸幕府から葵紋の使用を許され、
裏山には小さな東照宮があります。

切りにより、竹千代は船で尾張の織田氏
へと送られてしまいました。
この一件は、「竹千代強奪事件」とし
てよく知られています。ここで注目した
いは戸田氏の勢力下にあった大津湊で
す。少し、大津湊のことを紐解いてみま
しょう。
老津町は豊橋市の南部にあります。老津
と名乗ったのは明治11（1871）年から
でそれより前は「大津」と称していました。
大津とは、大きな湊（みなと）のことです。
かつては三河湾沿岸を代表する戸田氏
が支配する重要な湊町でした。そして、
湊の宗教的な拠点であったのが太平寺
です。太平寺は、数多くの文化財を所蔵
している臨済宗の寺院で、大津湊や戸田
氏とともに発展した歴史があります。
この寺と本堂正面の「開かずの門」には、
若いころの家康が今川氏との戦いの中で
逃げ込んだという、言い伝えがあります。



高縄城址（現在の家政高等専修学校）

校門に説明の標柱があり、東側の道路は堀があっ
たところです。戸田氏が知多半島の河和から進出
してきたときに築られました。

ところで、竹千代強奪事件の舞台に
なった湊は、具体的には老津町のどこ
にあったのでしょうか。戸田氏の居城
である高縄城は、現在の家政高等専修
学校の位置にありました。戸田氏は水
軍を率いて三河湾の制海権を握った有
力者であり、城のすぐ下には船着き場
を設けました。現在の地形を考え合わ
せると、大津湊の位置は紙田川の河口
に当たる、現在の259号線バイパスか
ら豊橋鉄道渥美線の老津駅、そして家
政高等専修学校付近にかけて広がって
いたと推定できます。

現在は、農業地帯に姿を変えた湊町。
大津。豊橋鉄道渥美線で老津町を訪ね
ながら、繁栄した湊町の風景を思い描
き、幼き家康の苦難を想像するのも悪
くはありません。